

福 祉 ふ り

編集・発行：富津市社会福祉協議会

第12回社会福祉協議会 福祉バザー開催のお知らせ

日頃、多くの場で活躍している福祉団体等の活動財源確保や広報活動の一貫として福祉バザーを開催します。

皆さんお誘いあわせの上、是非ご来場ください。



期 日 平成26年10月25日(土)
午前10時から午後1時まで

※物品がなくなり次第終了いたします。

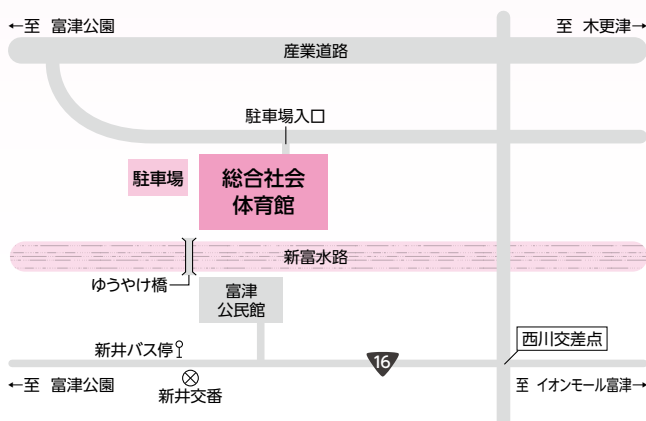
場 所 富津市総合社会体育館
富津市新富80番地

出店内容 日用品・衣類・手作り作品・
食品 等

一般団体・個人の出店も受付しております。

●ご希望の方は9月26日(金)までにお申し込みください。

富津市社会福祉協議会 ☎87-9611



平成26年度富津市社会福祉協議会事業計画

【基本方針】

少子・高齢化の進行や働き方などの生活様式の変化に伴って地域社会や家庭の様相は大きく変容し、孤独死や自殺、ひきこもりなどの社会的孤立の問題、経済的困窮や低所得の問題、虐待や悪徳商法、権利擁護の問題など地域における生活課題は深刻化しています。

誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを使命とする社会福祉協議会には、こうした今日的な地域福祉の課題を受け止め、その解決に向けて取り組むことが強く求められています。

これまで社会福祉協議会は、一貫して地域のさまざまな課題に対し、地域住民、民生委員・児童委員、社会福祉施設、専門機関、ボランティアなどと協力し、事業や活動を地域の実情に応じて展開し、さらに住民参加による地域福祉活動を通じて、行政との連携体制を強化して、地域福祉を推進してまいりました。しかしながら、「住民が抱える生活課題に対応した事業を行っているか」「福祉事業が生活課題解決につながっているのか」「現在の社協の使命を果たすものになっているのか」ということを自ら点検し、「地域福祉の最後の砦」という認識のもと住民に必要な事業のより一層の充実を目指します。

そこで、新規事業として富津市大佐和地区地域包括支援センターの受託、買い物支援、利用の手引きの発行など、より地域のニーズに応えた事業を展開してまいります。これらの事業を進めるにあたっては、行政、民生委員・児童委員、地区社協をはじめとする各種関係機関との連携・協働を目指し、質の高い福祉サービスを提供いたします。

(新規事業)生活困窮者自立支援事業のお知らせ

平成25年12月6日、生活困窮者自立支援法が成立し、平成27年4月から全国で新しい制度が実施されることとなりました。この制度は、社会経済の構造的な変化に対応し、これまで十分でなかった生活保護受給者以外の生活困窮者への自立に向けた支援を強化するものです。現在（6月より）モデル事業を実施しておりますので、就労や一時的な生活資金でお困りの方は、社会福祉協議会へご相談してください。具体的には、「富津市に在住の方で経済的に困窮しており、就労による自立に向けた支援を希望される方」ですが、当面の生活費に困っているなど色々な相談を随時お受けいたします。

尚、下記日程で出張相談を開催いたしますので、お近くの相談場所へ出向いて相談してください。

●9月24日（水） 天羽老人憩の家 13：00～16：00

●9月25日（木） 富津市大佐和地区地域包括支援センター 13：00～16：00

☎87-9611（富津市社会福祉協議会）

平成26年度富津市社会福祉協議会事業計画及び重点事項について

本年度事業は、新規事業として「買い物支援事業」「生活困窮者自立支援事業」を計画しました。又中・高校生に対し災害時対応の意識高揚のための派遣事業も実施するなど地域福祉事業の積極的な展開を目指します。

1. 社会福祉協議会の目標に即した事業展開および強化

(1) 地域福祉事業の発展強化

- 地域の人々が安心して暮らすため、時代に即した福祉事業の見直しと強化
- 会員組織としての協議体機能を発揮し、関係機関・団体との連携強化
- 社協事業の意志決定機関である理事会・諮問機関である評議員会の機能強化
- 新規事業「富津市大佐和地区地域包括支援センター」受託による地域福祉の向上

(2) 高齢者・障がい者福祉事業の推進

- ひとり暮らし高齢者を対象とした安否確認や緊急時対応事業の推進
- 高齢者生きがい事業からシルバー人材センター移行への検討
- 新規事業「買い物支援事業」によるひとり暮らし高齢者等の日常生活支援

(3) ボランティア活動の推進

- ボランティア活動の啓蒙、啓発、育成、ニーズの発掘
- 災害支援ボランティアや職員を被災地に派遣、支援を実施
- エコキャップ等の回収事業を開始し、貧困など世界が直面する様々な課題について、考える機会を提供する

(4) 福祉教育の推進

- 効果的で円滑な福祉教育の事業の推進のための支援
- 小・中学校での「総合的体験学習時間」の実施において福祉用具を活用し、体験学習の指導
- 新規事業 中高校生に対し、被災地研修による災害対策意識の高揚を図る

(5) 子育て支援事業の推進

- 子育ての当事者同士がふれあい仲間づくりを行う場の提供と、孤立しがちな子育て中の不安を解消し、親の心を支える支援事業の推進
- 子供向けの手作り布えほん・おもちゃを作成し、情操教育等に有効活用

(6) 広報・啓発活動の強化

- 新規事業「利用の手引き」発行による社協事業の利用推進
- 広報紙「福祉ふっつ」の充実を図り、社協活動の見える化、魅せる化の推進

(7) 相談・援助事業の強化

- 福祉関連の相談窓口が行政及び関係機関に分散し設置されており、問題解決に時間と労力を強いられている現状に対応するため、「福祉相談なんでも窓口」による福祉相談ワンストップサービスの充実
- 一時的な生活困窮・教育・療養等による福祉資金貸付事業の利用支援

2. 社会福祉協議会発展・強化のための基盤整備の推進

(1) 社会福祉協議会活動拠点の確保と関係機関との協力関係の強化

- 行政機関計画・施策の参画及び協力
- 地区社会福祉協議会育成及び活動支援（富津市要援護者安心ネットワーク事業の協力）
- 災害時、関係機関との連携及び調整

(2) 会員制度の充実強化

- 社会福祉協議会事業への理解及び一般及び法人会員の加入の拡大

(3) 財源確保の推進

- 福祉需要が増大している状況の中で、福祉事業の財源確保は必須であり、事業の見直しを図るとともに使途を明確にし、会費収入の安定化と募金活動の強化による財源確保の推進

(4) 福祉サービスの苦情解決体制の確立

- 利用者からの苦情を解決する第三者委員会の周知

(5) 職員の資質向上と研修体制の確立

- 職員の資質向上と効率的な事務処理を図るための研修体制の強化
- 被災地へ職員を派遣し、災害時の状況の把握・災害発生時の対応方法を研修
- 地域包括支援センター職員の研修体制の確立

『平成25年度富津市社会福祉協議会 会費・募金等活動報告』

平成25年度における「社会福祉協議会会費」「一円玉募金」「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい募金」につきまして以下のとおり報告させていただきます。皆様のご協力に感謝申し上げます。

●社会福祉協議会費 収入 8,717,300円

支出 8,717,300円		(単位：円)
事業名	説明	支出
法人運営事業	社協事務局事務費（広報費、パソコン等管理費、通信費、公用車管理費等）	3,675,393
福祉カー貸出事業	福祉団体等への貸出を実施している福祉カーの管理費（定期点検、保険料等）	271,683
地区社会福祉協議会 ふれあい推進員活動費	ふれあい推進員活動費	555,000
地区社会福祉協議会連絡協議会	地区社会福祉協議会連絡協議会会議	10,800
ボランティア連絡協議会助成金	ボランティア連絡協議会事業費の助成	250,000
ボランティアセンター運営	ボランティアセンター運営事業費 （コーディネーター、事務消耗品、パソコン等管理、通信費等）	1,643,922
被災地研修	社協理事、評議員、ボランティア、地区社協推進員による東日本大震災被災地研修（宮城県）	251,240
災害ボランティア派遣研修	東日本大震災被災地への職員派遣研修（岩手県宮古市、福島県相馬市、千葉県旭市）	364,069
シルバーテレホン友愛サービス	ひとり暮らし高齢者の安否確認を行うために、ボランティアによる 「声の訪問サービス」を月曜日から金曜日に実施（通信費）	142,483
災害見舞金、法外援護	市内で発生した災害において被災した方への見舞金 （全焼30,000円×3件、床上浸水10,000円×9件）	180,000
生活福祉資金事業	生活困窮者へ生活資金貸出運営費（貸付金、事務消耗品、通信費等）	1,227,370
子育て支援事業	月2回当事者同士がふれあい、協力者と親子の子育て支援「おやこ遊遊ひろば」 （事務消耗品、傷害保険加入等）	28,340
日常生活自立支援事業	君津四市日常生活自立支援事業運営費	117,000
支出合計		8,717,300

●一円玉募金 収入 2,759,848円

支出 2,759,848円		(単位：円)
事業名	説明	支出
平成25年度地区社協助成金	各地区社協へ配分	2,200,000
募金経費	募金依頼事務費・集計事務経費（封筒印刷代等）	85,848
繰越金	平成26年度で地区社協へ配分	468,000
一円玉募金積立預金支出	積立預金	6,000
支出合計		2,759,848

●赤い羽根共同募金 収入 5,538,398円

富津市でご協力いただいた赤い羽根共同募金は、全額を千葉県共同募金会（以下、「県共募」とする）へ送金し、次年度に県共募配分計画に基づき配分されます。配分先については県共募を通じて、千葉県内の民間福祉施設・福祉団体などの各種福祉事業や整備、災害時のボランティア活動支援、市内においては地域福祉推進を行うための活動費として配分され活用されております。

市社協には、県共募へ送金した募金額の地域目標額＋目標額超過分＋前年度歳末たすけあい募金繰越金が配分されます。なお、25年度限定で、千葉県内の郡支会廃止に伴う返還金が配分されました。

平成24年度富津市目標額 3,800,000円

2,280,000円
地域目標額
【目標額の60%】

+

3,054,000円
目標額超過分

+

133,398円
24年度 歳末たすけあい
募金繰越金

+

71,000円
郡支会廃止
返還金

=

5,538,398円
25年度
社協配分

目標額の40%(1,520,000円)は、県共募の広域配分として、千葉県内施設や福祉関係NPO、大規模災害対策積立準備金等に配分されます。

支出 5,538,398円		(単位：円)
事業名	説 明	支 出
介護家族の会	市内に居住し、自宅で家族を介護されている方を中心に結成。研修会等を開催。(研修費、通信費等)	143,460
音訳テープ発行事業	市内視覚障がい者へボランティアグループが、毎月一回「広報ふつつ」と「県民だより」の音訳テープを作成。(ボランティア活動費50,000円×2グループ、事業消耗品等)	109,681
福祉教育	市内小中学校(17校)へ福祉教育推進のために配分。また一人親中卒祝い品の配布を実施。(福祉教育推進費370,000円、祝品図書カード)	546,000
社会福祉大会	社会福祉活動に貢献した方へ感謝状進呈並びに記念講演を実施。(講師謝礼、事務消耗品、通信費等)	438,633
福祉バザー	福祉団体活動のための財源確保のため実施。(消耗品、通信費等)	42,839
ミニデイサービス	高齢者の閉じこもり防止、仲間づくりとして、レクリエーション等を実施(月6回実施)。(傷害保険加入、通信費、事務消耗品、器具購入費等)	375,300
布えほん事業	幼児・児童・障がい児者・高齢者を対象に布えほんの作成・貸出を実施。(事務消耗品)	133,079
福祉ふつつ	社協事業報告等掲載 年3回発行。(広報紙印刷費)	691,424
法律相談	弁護士による無料相談。月2回実施。要予約。1日6人まで相談。相談時間1人25分間。(弁護士謝礼金、事務消耗品等)	852,729
福祉緊急電話設置事業	ひとり暮らし高齢者緊急時通報システムの設置。(通報機器電池交換料、通信機器修繕費、通信費等)	608,715
いきいきサロン助成事業	高齢者サロンへ助成。(20,000円×2団体)	40,000
地区社会福祉協議会助成	市内11地区社会福祉協議会へ助成。	1,100,000
災害対策支援事業	災害時を想定し支援物資・段ボールトイレ等を準備	156,538
ボランティア活動保険	社会福祉協議会へ登録しているボランティア団体・個人の傷害保険の加入	300,000
支 出 合 計		5,538,398

●歳末たすけあい募金 収入 5,504,652円

歳末たすけあい運動は、市内の身体障がい者(児)等の方が地域で安心して暮すことができるように、また、年間を通してのひとり暮らし高齢者の見守り活動をするために地域住民、関係機関、団体等のご協力で運動を展開しました。

支出 5,504,652円		(単位：円)
配分先	説 明	支 出
福祉団体へ配分	市内にある当事者団体等(11団体)へ配分	330,000
地区社会福祉協議会へ	11地区社会福祉協議会へ給食サービス委託費	1,902,000
世帯へ配布	希望された重度身体障がい者(児) 415名	2,075,000
	希望された重度知的障がい者(児) 63名	315,000
	希望された要介護状態紙おむつ受給者 36名	180,000
	要援護者 125世帯	625,000
繰越金	翌年度に千葉県共同募金会配分計画に基づき配分	77,652
支 出 合 計		5,504,652

人・ひとの紹介コーナー 第1回

このコーナーでは富津市在住の方々を紹介いたします。
第1回目は金谷にお住まいの松岡壽郎様です。



●松岡氏は、

1. 住所 富津市金谷
2. 生年月日 大正14年10月22日生れ
3. 奥様と二人世帯
4. 昭和22年に金谷小学校教諭として奉職。以来、君津地方の小・中学校等で児童・生徒の健全育成に尽力されました。昭和58年に大貫中学校校長に、昭和61年退職となり現在に至っております。

●いろいろとお聞きしました。

質問 1 最近の子供たちについて？

松岡 子供たちが外で遊ばなくなった。今は福祉教育とかでいろいろなことを子供たちに教えているようですが、昔は食べるものもなく情操教育よりも生活重視の教育だった。

質問 2 孤独死の方が増えている現状について？

松岡 核家族が増えており、近所付き合いが無くなり、周りとの関わり合いを持たない人が増えている。声を掛け合うとかすることにより様子が変わったりした時の早い対応もできるのでは。また家族のきずなが薄れている。

質問 3 ご自身の健康法は？

松岡 若いころは柔道をやっていたが今はたまに15分くらい散歩をしている。現在も学校と関わり合いを持っており子供たちに昔のことを話したりしている。気持は今も昔も変わらないですね。

質問 4 趣味(特技)は？

松岡 習字と絵が趣味で今でも小学校へ行き子供たちに教えています。

松岡さんは、退職後もいろいろな形で子供たちに関わっており福祉のことなどのお話をしているそうです。これからもお元気で地域福祉の推進にお力を発揮いただきますようお願いいたします。

「家庭に眠っている食品を募集いたします!!」

皆様の家庭で眠っている食品を、生活に困窮している方にお配りします。そのために、お米、麺類、缶詰、インスタント食品等々の食品を募集しております。

集まった食品は「フードバンクちば」に寄贈し、必要とされる方に無償でお送りいたします。

●回収場所（土・日・休日を除く 8:30～17:00にお願いします）

1. 富津市社会福祉協議会
2. 富津市大佐和地区地域包括支援センター
3. 天羽老人憩の家

注意点

- ①賞味期限が明記され、かつ1カ月以上あるもの
- ②常温保存が可能なもの
- ③未開封であるもの 等です。

☎87-9611（富津市社会福祉協議会）

UD FONT
by MORISAWA

ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

R70

VEGETABLE
OIL INK

環境に配慮し、古紙配合率70%の再生紙
及び植物油インキを使用しています

禁無断転載